文化のちからにより訪れる人、住む人を魅了するまち

基本目標	歴史に彩られた個性 豊かな文化の創造	文化を生かした交流による 活力あふれるまちづくり
視点	文化をはぐくむ人づくり 文化がはぐくむ地域づくり	文化でつながるまちづくり 文化でにぎわうまちづくり
	多様な 選択肢提供 シビック プライドの醸成 地域の魅力 向上	誰ひとり取り 残さない機会 の提供 サードプレイス （第3の居場所） の増加 多様なにぎわい の創出

評価できる点

◆静岡市美術館で行われた「さくらももこ展」は想定の2倍以上の観客を動員し、地元の人々に愛されていることを感じた。今後も、地元出身のアーティストや静岡にゆかりの深い人材を活用し、シビックプライドの醸成に繋げていきたい。

◆静岡まつりや清水みなと祭り、安倍川花火大会、 大道芸ワールドカップなど市民が運営主体となって行われる事業が、コロナ禍からの復活を伺うことができ、地域への愛着心がより大きなものになったと評価できる。

◆旧エンバーソン住宅や静岡市役所本館などの有形文化財をフィルムコミッション事業を通じてロケ地として貸し出し、活用・発信する取り組みは、市内外へのアピールにもなり評価できる。

◆2023年にグランドオープンした歴史博物館は、市民、とりわけ子ども達に地域の歴史を学んでもらう最適な場所となっている。学芸員の「マニアックトーク」や「分かりやすい歴史・地域のおはなし」は実施回数も多く、固定ファンもできているため、今後も地道な活動を継続したい。

◆こども園・学校訪問コンサート、文化芸術アウトリーチ事業は、文化芸術の魅力に触れる「きっかけ」のない子どもたちへ文化を届けることに静岡の文化発展への意義を感じる。市内の若手演奏者や学生など県内の人材を積極的に活用して継続したい。

◆静岡わいわいワールドフェアやアウトリーチ事業、ラウドヒル計画など多様化する市民構造に対応した事業は評価できる。また、これまで集団を基礎とした文化活動に馴染めなかった人達や、新しく静岡市民となった外国人などが、活動する場を提供できるよう、積極的に取り組みを継続したい。

◆「世界大会」を掲げ、清水をその聖地とする先進的な取り組みを行う富士山コスプレ世界大会や、静岡のローカルフードをテーマにしたおでん祭りなど、様々な視点でにぎわいを創出していることは評価できる。

◆第81期将棋名人戦や第78期囲碁本因坊戦など本市にゆかりの深い徳川家康公に絡めて行ってきた事業は、地域文化の振興と歴史資源を県内外にアピールする機会に寄与したとして評価できる。

改善すべき点・今後の事業に期待すること

◆「大神楽祭2024」は当日の雨で来場者が大幅に減ったことが要因の1つではある。とはいえ「伝統文化寺子屋」など、静岡の民俗芸能に対する市民の関心の薄さが伺える結果となっていることを危機感と捉え、取り組みを検討していくことが望ましい。

◆各課において様々な事業を実施しており、多様な機会と選択肢を提供している。事業のより効率的かつ効果的な実施に向け、民間事業者で実施する芸術文化体験やサービスとバランスを取り、本市の特色を活かした持続可能な取り組みとしていく視点も必要である。

◆ホビーのまち推進事業は、今後、世界的にも注目が集まる視点である。今後、深堀して静岡の歴史・文化への興味関心が広がるよう商業的な流れにも繋げ、しずおか文化発信力の強化と地域づくりとなることを期待する。

◆文化財の修復や整備などの過程を公開し、文化観光として捉えていくとともに、文化財の魅力について語ることのできる人材を育成していくため、積極的なアピールを行っていくことを期待する。

◆ラウドヒル計画は、事業を安定的に継続していくための土台づくりや出演者一人ひとりが活動の幅を広げ、更に新しいチャレンジを展開できるような仕組みづくりに期待する。誰もが参加可能な文化事業の代表として、社会情勢に適応した取り組みを率先して行っていくことが必要である。

◆親子を対象とした事業は、親の関心が薄いと子どもが参加できないため、学校のような子どもが集まる場所を介すなどして広くターゲットに情報を発信していくことが望ましい。

◆令和5年度大河ドラマ「どうする家康」関連事業では、歴史博物館を中心に「歴史×静岡市」をアピールできる機会であった。静岡市として、SNS等を活用した戦略的な広報や協働の視点で、好機を逃さない取り組みが必要である。

◆富士山世界遺産の構成資産を有する静岡市として、海外プロモーション事業には特に重点を置き実施していくことが求められる。イベント単体ではなく、地域そのものの魅力とつながったプロモーションに期待する。

全体評価

◆第2期静岡市文化振興計画がスタートして初年度となる令和5年度の文化事業は、コロナ禍があけ、市民が主役となる文化事業が活気を取り戻し、中心市街地では歴史博物館がグランドオープンするなど新たな「しずおか文化」の創造に期待のかかる1年となった。
第2期静岡市文化振興計画におけるビジョンのもと、今後の文化事業の展開に求められる要素を以下のとおり整理して総括としたい。

①誰もが参加可能な文化事業の展開
誰もが参加可能な文化事業をより一層推進していくため、その内容・方法の多様化を図るとともに、対面で実施する取り組みに加え、オンラインや仮想空間を通じて参加できる事業の展開に期待したい。「外に出ること」や「集団の中に入っていくこと」に抵抗のある層が文化に触れる機会から乖離してしまうことのないよう、内容・方法・空間という3つの視点で取り組みを検討していくことが望ましい。

②静岡にゆかりのある人材や地域資源を活用した「しずおか文化」の発信
令和5年度における文化事業では、静岡市美術館で行われた「さくらももこ展」の開催やアウトリーチ事業における地元オーケストラの活用など、地域にゆかりのある人材や地域資源を活用した事業が多く実施された。各種事業において、また、各文化施設における企画展等において引き続き地域にゆかりのある人材を積極的に活用する取り組みを継続していくとともに、民間事業者等と協働し、多角的な視点で地域資源にスポットを当て、「しずおか文化」の魅力発信とシビックプライドの醸成に繋げていくことを期待する。